

『水利土木遺産を探求する』

日時

平成29年

8月19日(土)

13:00~16:50

(受付 12:30~ 無料)



筑後国主 田中吉政像

場所

久留米市新合川1-1-3 筑後川防災施設「くるめウス」

筑後川・矢部川・嘉瀬川の3河川では、先人たちが血の滲むような尽力でもって、治水・利水に対処してきました。それは水刳、荒籠、土居、堰、溜池、ダムなどを築いてきた水利土木遺産として現存します。これらの土木遺産の意義を探求します。

基調講演 「水利土木遺産の意義について」

九州大学大学院 工学研究院 教授 島谷 幸宏

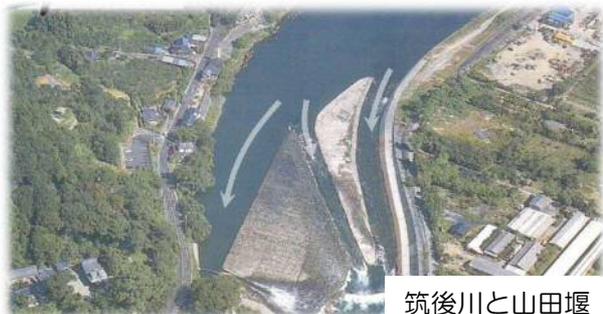
研究テーマ

筑後川 「筑後川の水利土木遺産を探求する」
国土交通省筑後川河川事務所 所長 富岡誠司

矢部川 「矢部川の水利土木遺産を探求する」
八女市文化財専門委員会 会長 馬場紘一

嘉瀬川 「嘉瀬川(有明海を含む)の水利土木遺産を探求する」
佐賀大学大学院工学系研究科 教授 大串浩一郎

パネルディスカッション『水利土木遺産を現代にどう活かすか』
コーディネーター 九州大学大学院工学研究院 助教 林 博徳



筑後川と山田堰



嘉瀬川と石井樋

主催、問合せ：筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会
090-7297-4073 (事務局)

本研究会は、(一社)北部九州河川利用協会の支援を得て実施しています